

# 産別賃金問題は労働組合の根幹が問われる大問題 中央港湾団交決裂、行動を配置し全力でたたかう



第四回中央港湾団交が三月三十日開催された。前回の第三回中央港湾団交終了時、産別賃金統一回答問題について、小委員会を三月二十日、二十八日に開催し何らかの努力をするとしていたことから、第四回中央港湾団交での回答が注目されていた。

しかし、業側からの回答は、前回、前々回の中央港湾団交から全く前進が見られなかった。産別賃金についての回答がないだけでなく、それ以外の港湾労働法適用の問題・港湾倉庫の問題・常用労働者派遣センター制度創設の問題についても委員会検討した

いでの回答も全くなかった。団体交渉においては、業側の前・労務委員長も出席し、ここ数年間の産別賃金・独禁法を巡る経緯についての説明があった。しかし、その内容はこれまでの話し合いの繰り返しであり、産別賃金の数字の文章化は容認できないというところの繰り返しであった。



東京都大田区蒲田  
5の10の2  
全日本港湾労働組合機関紙  
(毎月1日発行)  
一部20円 (組合員の購読料は組合費の中に含む)  
発行責任者  
真島勝重



## 全港湾回答指定ゾーン、65%に有額回答 闘争分会回答額平均3,143円 (-729円)

全港湾は3月22日から26日までを指定回答ゾーンとし、各地方で集団交渉を進めた。3月26日までの後半を終えたところで、各地方の有額回答が出揃って来た。回答を受けた分会は、全体の59%にあたる192分会、回答額平均は3,143円で昨年同時期より729円減のスタートとなった。

速報分会回答状況：142分会中92分会(65%)に有額回答が示され、回答額平均は3,436円、率で1.14%であった。参考までに、昨年の最終の回答額平均は3,733円、妥結額平均は3,830円であった。

闘争分会の回答状況：326分会中192分会(59%)に有額回答が示されたが、回答額平均は3,143円、率で1.18%、昨年同時期と比べると729円の減となっている。参考までに、昨年の最終の回答額平均は3,479円、妥結額平均は3,556円であった。

職種別の回答状況：港湾の回答額平均は3,586円(昨年同時期の回答額4,314円を731円下回っている)、トラックの回答額平均は1,760円(昨年同時期の回答額2,388円を628円下回っている)、一般の回答額平均は2,143円(昨年同時期の回答額3,573円を1,430円下回っている)。

2018：春闘		<地方別一覧>			2018/03/27 現在	
地方名	速報分会数	回答分会数	妥結分会数	回答額平均	妥結額平均	率
北海道	7	7	0	5,076	-	1.61%
東北	11	9	0	4,070	-	1.28%
日本海	8	8	0	3,462	-	1.21%
関東	13	11	0	3,276	-	0.98%
東海	14	0	0	-	-	-
関西	38	31	0	2,582	-	0.83%
四国	13	9	0	799	-	0.29%
九州	28	7	0	499	-	0.17%
沖縄	10	10	0	2,953	-	1.09%
全国	142	92	0	3,436	-	1.14%

ば、これ以上の対立はよい影響がない。なんとか歩み寄り解決できないものか。本日の回答は大変残念であり、おおいに不満である。等と述べた。そして、最後に「産別賃金問題は労働組合の根幹の問題」として、やむを得ないが、「四月八日(日)始業時から二四時間ストライキ(日曜就労拒否)を通告する」とし交渉を打ち切った。また、

(片柳悦正)

## フクシマ連帯キャラバン 脱原発を呼びかけ



3月14日から21日の日程で「2018フクシマ連帯キャラバン」を実施した。キャラバン隊は14日に新潟から出発、福島、茨城、東京と移動しながら各地で脱原発を呼びかけ、最終日の21日、東京・代々木公園にゴールした。フクシマ連帯キャラバンは平和フォーラムの理解を得て年々参加組織が増え、今回は全港湾、全国一般、全日建連帯、自治労、日教組、国労が参加、総勢26名のメンバーで行動を共にした。キャラバン隊の詳細は全港湾教宣紙「ブレイクタイム」及びホームページにて紹介するので後日参照していただきたい。(教宣部)

# 大幅賃上げで生活改善を！ 港で働くすべての仲間に産別協定の適用を！

## 一八春闘勝利！全国港湾中央行動

### 総勢二五〇名超が参加

三月十五日、十六日、全国港湾は一八春闘の統一行動として「大幅賃上げで生活改善を！港で働くすべての仲間に産別協定の適用を！」をスローガンに中央行政交渉、ユーザー要請行動、東京・大手町デモ行進等の取り組みをおこない、総勢二五〇名が参加した。



三月十五日、十六日、全国港湾は一八春闘の統一行動として「大幅賃上げで生活改善を！港で働くすべての仲間に産別協定の適用を！」をスローガンに中央行政交渉、ユーザー要請行動、東京・大手町デモ行進等の取り組みをおこない、総勢二五〇名が参加した。



三月十五日、十六日、全国港湾は一八春闘の統一行動として「大幅賃上げで生活改善を！港で働くすべての仲間に産別協定の適用を！」をスローガンに中央行政交渉、ユーザー要請行動、東京・大手町デモ行進等の取り組みをおこない、総勢二五〇名が参加した。



三月十五日、十六日、全国港湾は一八春闘の統一行動として「大幅賃上げで生活改善を！港で働くすべての仲間に産別協定の適用を！」をスローガンに中央行政交渉、ユーザー要請行動、東京・大手町デモ行進等の取り組みをおこない、総勢二五〇名が参加した。

員、社民党・吉川衆議院議員に駆けつけていただき、激励と連帯の挨拶を受けた。

そして、国交省、厚労省、経済産業省に申入書(港湾政策並びに港湾労働に係る申し入れ書等々)を提出、各省と交渉をおこなった。

組合側より「一、船社アラ

イアンスに係る件、二、港湾

運送事業基盤の安定に資する

諸課題、三、港湾政策に係る

諸問題、四、港湾労働者の雇

用と職域に係る問題、五、安

全・安心の諸施策と港湾機能

の活用」についての要請をお

こない、国交省側からの回答

を受けた。

しかし、国交省側からの回

答は、回答と言うより、法律

問題で揺れる緊迫した国会情

勢の中、立憲民主党・逢坂衆

議院議員、日本共産党・宮本

衆議院議員、山添参議院議

声が多数あがった。そのため

組合側より「一、労働法制

に係る諸問題について、二、

港湾労働者の賃金について、

三、港湾労働者の雇用安定・

職域拡大について、四、港湾

労働の安心・安全を確保」に

ついての要請をおこない、厚

労省側からの回答を受けた。

参加者からは、次期港湾雇

用安定等計画に港労法全国適

用の件や港湾倉庫と特定港湾

倉庫の問題の件を盛り込める

よう協議を開始してほしい、

フレキシブルバッグの現物を

見ながら物事を言っ

てほしいからこの場に来てい

ず続けてほしい等々の意見が

次々と出された。こうした意

見を踏まえて全国港湾松本副

委員長より「行政交渉に法律

の解釈を聞きにきているわけ

ではない。法がないなら、

について、五、インランドテ

ボヤコンテナラウンドユース

(CRU)の施策について、

六、SOLAS条約の改正に

伴う重量証明について、七、

四五フィートコンテナの公道

走行について」の要請をおこ

ない、経産省側からの回答を

受けた。

経産省側に対しては、経産

省が担当している企業等は、

港湾から見れば港湾を利用す

る利用者・ユーザーという立

場になる。港湾の利用者・ユ

ーザーの利便性を求めると、

必ず労働者と利害が対立して

くる。認可料金の問題然り、

フレキシブルバッグ問題然り

だ。安全に安心して働けるよ

う、是正をお願いすると強く

求めた。

丸の内デモ行進

翌十六日は丸の内繁華街に

集合し、道行く人に港湾の実

情を広くアピールしようと千

代田区職労との共催でデモ行

進をおこなった。系谷委員長

は「行動あるのみ、決意を固め

て断固たたかおう」と訴え、

一八春闘勝利に向けて氣勢を

あげた。デモ行進参加者は

「大幅賃上げを行え!」、「港

湾利用者は適正な作業料金を

払え!」、「憲法改悪反対!」、

「労働法制改悪反対!」とシ

ュプレヒコールを続けた。

続けて午後には、出席者限

定で、消防庁交渉、外船協要

請、日本貿易会要請をおこな

った。消防庁交渉では、引き

続き、フレキシブルバッグに

求めた。(片柳悦正)